

第4回 臨時会（令和元年10月28日）

一般会計補正予算(第5回)・統合型リゾート(IR)の誘致に関する決議を可決！

第4回臨時会は10月28日に1日間の会期で報告2件、議案1件、決議案1件の審議がおこなわれました。今臨時会では、市が提出した補正予算案「苫小牧国際リゾート構想環境影響調査事業費(1,798万6千円)」と、議員提案による決議案「統合型リゾート(IR)の誘致に関する決議」が審議され、ともに賛成多数で可決されました。

決議案に対する各会派の主張につきましては、下記をご覧ください。

統合型リゾート(IR)の誘致に関する決議案に対する会派主張

会派名（賛否）主張

新緑（賛成） IRは、新たな成長戦略の一つとして、雇用の創出や地域経済の活性化が期待できます。本市は、国際空港と国際港湾を擁（よう）し、日本型IRに期待されている国内外のゲートウェーとなることのできる優位性を持ち、北海道の観光・産業の発展に貢献できるものです。しかしながら、IRには自然環境対策やギャンブル等依存症対策の実効性確保などの課題があり、具体的な対策を示すべきです。申請主体となる北海道は、これらの懸念を払拭し、IRの誘致に向けた取り組みを進めるべきです。よって、本市の苫小牧国際リゾート構想に掲げるIR誘致へのチャレンジの取り組みを支持すると共に、区域の一つに選ばれるよう、誘致に対する活動を推進します。

公明党議員団（賛成） 我が公明党は、推進派です。誰もが予想していなかった「人口減少」「少子高齢化」の流れは大きく、どこの自治体も知恵を振り絞りあらゆる角度から対応を考えているが、決定打はどこにもありません。今回の「IR」については、大事な財源確保の場であると共に、流しが続く未来を担う学生達やこれからの子供たちの将来の受け皿ともなります。ただ、今回の「決議」においても、もろ手を挙げてではなく、私たち会派が決議書の中に「ギャンブル依存症」と「環境破壊阻止」を盛り込ませました。世界の有名地・ラスベガスやシンガポールなどの実態を見ますと、単なる感情ではなく、きちっと法整備をする事で、ギャンブル依存症も犯罪率も下がっておりますことが現実です。よって、私たち会派は賛成しました。

民主クラブ（反対） 今回の決議は、IR誘致を積極的に推進することを表明するものであります。カジノ施設を必要とする根拠や考え方を示されることもなく、IRが雇用の創出や地域経済の活性化といったバラ色の未来を強調され、カジノ施設のデメリットとして危惧しているギャンブル依存症対策や治安の悪化の恐れについては、本市と北海道にその責務を果たすことを丸投げにされました。本当にIRが日本経済を救い、人口減少、少子高齢化対策となるものであれば、全国47都道府県が誘致を表明するはずであります。この決議に対しては、市民議論が進まない中、市民の意向を封印するもので、議会だけで決めることは、市民理解が得られるものではなく、反対の立場を貫きました。

改革フォーラム（賛成） 「統合型リゾート(IR)の誘致に関する決議案」については、①IR誘致の可能性を追求することは、苫小牧市の安定的な将来を築く上で、大切な選択肢の一つ ②北海道がIRに対するビジョンや覚悟を示さず、苫小牧市議会の議決を求めるものなら遺憾である ③IRの概要、インフラ経費、もたらす経済効果など、不透明な現段階で、白紙委任するような決議にはのれない ④過度にメリットだけを強調することは、今後の議会議論に影響を与える懸念があり、今後のプロセスにしっかり向き合っていくことが大切。以上4点を会派の考えとして定め、決議案の調整に臨み、私どもの考えが決議案に一定程度盛り込まれたことから、賛成の立場をとらせていただきました。

日本共産党市議団（反対） IR誘致推進の議会は、IRに対する市民理解が得られていない現状から拙速（せっそく）であったと考えています。ギャンブル依存症や自然環境への影響、青少年の健全育成への影響など、懸念される諸課題の対策は「検討中」あるいは「これから検討」段階であり、議会として判断できる材料は揃っておらず、市民の不安は払拭できません。経済効果や雇用の創出などをIR誘致の理由にしておりますが、経済波及効果の数字の算定根拠は不透明であることも明らかであり、IRに集客した場合の周辺商業施設へのマイナス効果も検証されていません。カジノ収益に頼るIRを「起爆剤」とするまちづくりは、健全なまちづくりとはいえません。

会派市民（賛成） 私たちはIRが持つ、多くの旅行者を引き付ける施設として素晴らしいものであることは認めてきました。しかし、カジノがあることによって市民の中に賭け事への依存症、特に会社のトップが依存症になることによって全く関係のない従業員が路頭に迷う事態を引き起こしかねないことなどから反対してきました。しかし市は賛成議員を半数以上確保しました。そうなると反対の議員の意見が市政に反映されなくなります。そこで会派市民はIRに北海道民は入れないカジノを求めました。そうならば市民の常習性が抑えられ、依存症になりません。市はそれをいれ北海道と必ず話し合うことを約束しましたので決議案に賛成しました。

無所属 触沢高秀議員（賛成） 苫小牧市は豊かな観光資源と充実したアクセス経路が備わっています。観光業（人の流れ）が伸び悩んでいるのは何か訪れるきっかけが足りないと考え、そのきっかけ作りにIRの導入は効果的であると考えます。苫小牧臨空エリアを中心に地域の特性を活かしたIRを設立することによって、苫小牧市に滞在する観光客は増え、各産業の経済に良い影響をもたらすと考えます。物消費から事消費に消費が移っている時流をつかむにはIR事業は最適な事業だと捉えています。苫小牧の未来を考え、さまざまなリスクもありますがチャレンジしていきたいと思えます。